

田原本をもっともっと 住みよい街にしたい！
お力をお貸しください。

田原本町議会議員

厚生建設委員会 委員長
議会改革特別委員会 委員長

ふじい

藤井 まさと

45歳

未来の田原本を考える会



任期最後の一般質問

「実現！ 町長が藤井提案を100%認めた課題」
～子育て支援から高齢者福祉まで～

子どもたちの安全と、高齢者の“出番”がある安心とぬくもりのある田原本町にするため、4年任期最後の議会でも、藤井誠人は“合理的な・提案型で”政策を進めました！
「誰かのそばに、いつも誰かがいる」助け合えるまち！
高齢化が進み、子育て世代の孤立も懸念される今、町に本当に必要なのは、支え合いの仕組みです。



1

認知症になっても安心して暮らせるまちへ

～制度から“地域文化”へ、高齢者福祉を町の柱に～



制度があるだけでなく、誰もが自然と支え合える文化を育てていく視点から、次の段階の高齢者福祉へ進める提案を重ねました。

❑ **フレンドリー商店制度の導入を提案！**
⇒町も導入へ前向き答弁！

認知症サポーターが勤務する店舗等に「見守り協力店ステッカー」を掲示。
高齢者が安心して外出できる“日常の安全網”を地域に広げます。

❑ **GPS・LINEを活用した「日常見守りモデル」構築へ！**

現行の“行方不明時対応”だけでなく、日頃から予防的見守り体制を提案！
モデル事業化へ向け、地域包括支援センターとの連携も視野に。

❑ **オレンジカフェ※を拠点化**
⇒相談・交流の場を地域に拡充

月1回のカフェ開催に加え、出張型や公共施設での実施など提案！
今後は公民館や福祉施設での出張型開催や広報の充実により、より多くの高齢者が参加できる環境へ。
※オレンジカフェとは、認知症の人やその家族、地域住民、専門職、誰もが気軽に集う場です。

❑ **SOSネットワーク、登録支援と紙媒体活用へ町が動く！**

⇒出張登録サポートや紙の登録ガイドの提案に対し、町は「準備を整えてまいりたい」と答弁。裾野を広げる支援体制が動き出しています。

ふじい
藤井 まさと

なんでもご相談下さい。

経歴

- 自民党田原本町支部 青年局長
- 自民党奈良県連合会 政務調査審議委員
- 自民党奈良2区青年局 サイバーセキュリティ委員長
- (一社)大和郡山青年会議所 第42代理事長
- リニア中央新幹線早期実現に向けた市民運動の牽引
- 近畿ブロック副委員長
- 青少年健全育成委員
- 空手道MAC奈良支部 顧問
- 関西若手議員の会 賛助会員
- 予備自衛官(二曹)
- 茶道裏千家淡交会 青年部員

資格

- 一級建築技能士
- 宅地建物取引士
- 耐震診断員
- 二級建築士
- ブロック塀診断士

受賞歴

- リフォーム全国コンテストグランプリ受賞
- トータルハウジング大賞 7回受賞、他受賞



2

放課後は“学校の外”が本番！ 地域で育つ環境をもう一度！

～“居場所と出番”のまちづくりで、子どもの未来に投資を！～



子どもたちの放課後に、大人たちの出番がある。そこに生まれるのは、安心だけでなく、“まちのぬくもり”です。

✓ まちの先生制度を提案！ ～高齢者の知恵と経験を放課後へ！～

地域の方々が、料理・農作業・生活の知恵などを子どもたちに伝える制度。「まちの名人登録」「まちの先生デー」などモデル実施を町に提案。⇒町も方向性に賛同し、今後の検討へ！生きがいやフレイル予防にもつながる仕組みです。

✓ 公園の再生も“町民協働型”で！ ～子どもも大人も主役に～

公園の再生。対話と賑わいのある空間づくりを 町民協働による公園の活用や整備について提案。町も大型トランポリンやインクルーシブ遊具を備えた新公園を整備中。将来的にはパークPFI導入も視野に、住民主体の公園づくりを検討。

✓ 「放課後協力施設」や「歓迎ステッカー」の導入を提案！

「ただいまOK!ステッカー」などを掲げて、空き店舗や図書館、公園、商店などを放課後に開かれた場所に。町は現在、こども食堂支援を強化中。ステッカーなどの新たな受け入れモデルにも前向きな姿勢。



3

農家さんへ

「1億円規模の井堰改修、1,000万円負担を減らせるチャンス！」

～誰も気づいていない、国の複雑なガイドラインを引用して提案！～



平均1億円規模の井堰改修工事の中には3億円を超えるものもあり、その約10%＝1,000万円が地域の負担となっています。この現状を変える、大きな一歩を委員会で訴えました。

現在の負担割合＝国50%・県5%・町35%・自治会10%。

しかし、国のガイドラインでは、県補助率は本来18%！

現実には5%しか出ておらず、町や自治会が本来より重い負担を背負っている状況なのです！

委員会で

「国→県→町の三段構え」で補助率を見直せば、自治会負担の軽減が可能であることを提案！⇒町長も「地元負担の軽減は考えられる」と明言しました！

次世代に向けたベストプラクティス(最善の方法)を必ず形にします！

令和7年8月7日 厚生建設委員会でのやり取り(要約)

藤井(委員長)

「国基準では県補助は18%。現状の5%は低すぎる。条件なしで引き上げを！」

町長

「県補助が国のガイドラインを下回っており、町が多くを負担。県が部分的に補助率引き上げを検討しているが、町としてはすべての補助事業において県補助のかさ上げを強く要望していく。」

藤井

「県の補助がガイドラインに沿っていない現状を、これまでしっかり声に出せていたのか？町民を代表して、明確に要望してほしい。」

非農家の皆さんへ

「井堰・水路は日常生活にも
関係しています。農業用水路等は、
ただの“農業施設”ではありません。」



最近のゲリラ豪雨や都市排水は、雨水が直接トユや側溝から水路に流れ込み、農業インフラが地域の減災・防災に大きく貢献しています。

だからこそ、「農業だけの話」としてではなく、まち全体の未来の話として、この防災の日を機会にいっしょに仕組みを考えていきましょう！

令和7年第3回定例会 厚生建設委員会
8月7日 厚生建設委員会 委員長としての発言
9月1日防災の日投稿



高齢者が一人で歩けるまち、子どもが地域で育つまち、そして、誰もが“出番”を持てるまち。それを一歩ずつ実現するのが、藤井の“現場からの提案型議会”。任期最後の議会でも、声を届け、政策を動かす。田原本町の未来図は、ここから“まち全体の力”で描いていきます。

貴重なご意見をお願いいたします。皆さまの未来、豊かな町づくりを実現します。お力をお貸し下さい。

事務所 〒636-0341 奈良県磯城郡田原本町薬王寺50-2
☎0744-33-2786 FAX.0744-32-0430

▼ 藤井まさとの活動を発信しております ▼



Instagram



「誰ひとり取り残さない町へ」そして「子どもたちの未来のために」

発行／藤井まさと後援会

討議資料